

だいせんの偉人先人たち

たかはし いちぞう (えまぞうおう) 高橋 市蔵 (円満造翁)

【分類】 けんちく げいのう
建築・芸能

【生没年】 1868年 ~ 1945年

(けいおう 慶応4年) (しょうわ 昭和20年)
(めいじ 明治元年)



大仙市とよかわ豊川出身で、16歳で一人前になった腕利きのみやだいく やごう宮大工。屋号である「円満造（蔵）」、「東北のひだりじんごろう左甚五郎」と呼ばれ、現在でも大仙市（豊川のすわどう諏訪堂、仙北のなんよういん南陽院、たかなしじんじゃ高梨神社）や仙北市（角館白岩のうんがんじ雲巖寺）を中心に東北各地のじんじゃぶっかく神社仏閣でその作品を見ることができる。市蔵はおどけた人で、大工仕事をしながら大工道具であるだいくどうぐ鉾ちょうなでリズムをとって歌を口ずさんだり、棟上げなどの祝い事では、しゃみせん三味線や歌でにぎやかに盛り上げ人々を喜ばせたりしていた。彼の作詞・作曲した「えまぞうじんく円満造甚句」は、ぶしどんパンもとうた節の元唄になった。

出典 『大仙市どど〜んとまるごとふるさと探訪ポケットブックポケットマップ』2018、2019、大仙市教育委員会／編
『先人の歩み上』1979、大曲市仙北郡校長会／編